

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号: 4 事業名: 長寿やまなし振興事業費補助金

アドバイザー	評価区分	評価内容
諸平アドバイザー	「要改善」	<p>平成24年の行政評価の見直しで、より多くの高齢者が参加するよう、情報発信の強化、世代間交流を深める取り組み、ことぶきマスターの技能発表の場の拡充に取り組んできたと説明があったが、示されたデータを見ると、高齢者の増加を鑑みても、参加人数が増えているようには思えない。事業開始時の平成3年と比べて、現在の60歳は、働いている方も大勢おり、考え方も行動も大分変化していると思われる。高齢者リーダー、ことぶきマスターという表現についても、茨城県の例にもあるよう、ジュニアに対する、シニアのような呼び方がなじみやすいかもしれないし、参加しやすくなるかもしれない。また、シルバー作品展・俳句展についても、山梨県民文化祭へ出品する等、他の事業との兼ね合いも考えた世代間の交流が出来るのではないかと考える。</p> <p>いずれにしても、画一的な高齢者像ではくれない、幅広い高齢者への対応を今後も行っていくため、健康長寿を目指す県として、新しい取り組みを考えていただきたい。</p>
小口アドバイザー	「要改善」	<p>県内60歳以上の人口は大幅に増えているが、参加者は増加していない状況。他県の例を見たが、ことぶきマスターのような制度はほとんど無いが、せっかく作ったこの制度も、活動は十分と言えない状況。この2点から要改善とした。</p> <p>60歳以上の生活パターンは変わってきているので難しいところだが、一度、競技とか様々な出展についても、参加者分析を行い、実態を把握して、参加できていない人はどういう人なのかを一度整理・分析していただきたい。分析した上で、誰に、どのようにPRしたらよいかということになると思う。その上で、従来の老人クラブ主体というPR方法から、違ったアプローチの方法を工夫し見直しを行っていただきたい。</p> <p>それと、ことぶきマスターはせっかく資格者がたくさんいるのに、受け入れ先も活動者も限定されているようなので、実働人数をもう少し増やすということについても見直しをしていただきたい。</p>

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号: 4 事業名: 長寿やまなし振興事業費補助金

アドバイザー	評価区分	評価内容
五味アドバイザー	「要改善」	<p>ことぶきマスターについて、その目指すところは、熟練者を活用し、孤立することなく、また、他の高齢者の刺激となるよう活動していただくという、大変すばらしい制度だと思う。</p> <p>ただ、現在の状況を見ると、一部の固定した方々の自己表現の場となっているのではないかと見直しがなされて対策が取られているが、実稼働人員は増えていないというのが現状。そうであるなら、制度自体を根本から見直す必要があるのでは。</p>